

2019～2020年度 RIテーマ



2019～2020年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・
マローニー

2019～2020年度 クラブテーマ

Restart!

創立60周年 第2ステージの始まり
2019-2020

東京立川ロータリークラブ
会長 長井 守

【会長挨拶】 長井 守 会長

先週末から今週始めにかけて日本人アスリート達の活躍には目を見張るものがありました。中でも、大阪なおみさんは東レパンパシフィックオープンで優勝し、日本人女子の大会優勝としては、95年伊達公子さん以来24年ぶり史上2人目となり、1月の全豪オープン以来、ツアー通算4勝目を挙げました。彼女は「日本人登録」で出場していますが大阪なおみさんは、日本人の母、環さんとハイチ出身の父、フランソワさんとの間に大阪で生まれ、3歳で米国に移住しました。二重国籍で日本語は苦手、見た目も言語も文化も、さらにはインタビューでも観衆を沸かすインターナショナルなジョークも、もはや「米国人」と言った方がしっくりくるのかも知れません。思い起こせば全豪オープン準決勝の戦い前、一人の米国女性記者が「彼女、本当は米国人よ!」と言ってきました。その記者は昨年10月のツアー最終戦、WTAファイナルの時も「なぜ大阪なおみを日本に持っていかけたのか!」と、噛みついてきたそうです。ではなぜ大阪選手は「日本人登録」をしたのでしょうか。2013年の9月の東レパンパシフィックオープンに、さかのぼると、日本テニス協会の女子代表コーチだった吉川真司さんは、日本人登録で出場していた選手をチェックしていた所、予選1回戦で敗れた一人の選手に目が釘付けになったそうです。それが、当時15歳の大阪なおみ選手です。すぐに女子代表監督に報告し、日本に来たときは、味の素NTCで練習できるように取りはからい、地道な支援を続けたそうです。大阪選手は米国テニス協会のジュニア大会出場の際は目立った成績は残せず、ご両親は米国協会に支援を申し込みましたが、取り合ってもらえませんでした。しかし大阪選手が2016年全豪で予選を勝ち上がり、本戦で3回戦に進むと米国協会はアプローチを仕掛けてきて、日米争奪戦の勃発となりました。米国は多額の支援を提示してきましたが、大阪選手の父フランソワさんは、無名の時から自分の娘を支援し続けた日本の恩義を尊重し、今でも「日本人登録」を続けているのだそうです。

最近、日本人の気質が希薄になってきている中、外国人である大阪選手のお父様に逆に気づかされた思いです。インタビューでも時折垣間見る大阪選手の謙虚さとお父様の感謝を持ち続ける心は、まさしく東レパンパシフィックオープンの優勝に匹敵する名誉あるものと、自戒を込めて少し良い話としてお話をさせて頂きました。

【お客様の紹介】 長井 守 会長

玉元正男 様

(元フィンガー5・町家いちやりBAR代表)



司会進行
金松誠司 副委員長



ニコニコの発表
小川貴志 委員



出席率の発表
金原宏和 委員



新会員 加藤千晶さん・卓話講師 玉元正男 様と一緒に

【司会進行】

SAA委員会 金松誠司 副委員長

【開会点鐘】 長井 守 会長

【ロータリーソング斉唱】

『奉仕の理想』

【お客様の紹介】 長井 守 会長

【会長挨拶】 長井 守 会長

【入会セレモニー】

【幹事報告】 中山賢一 幹事

【ニコニコ発表】

親睦委員会 小川貴志 委員

【出席率の発表】

出席委員会 金原宏和 委員

9月27日(金)	会 員 数	122名
	出 席 義 務 会 員	114名
	出 席 免 除 会 員	8名
	当 日 出 席 者	99名
	出席免除会員の当日出席者	3名
	出 席 率	84.62%
	9月13日の出席率	81.74% → 98.29%

【卓話】

元フィンガー5・町家いちやりBAR代表
玉元正男 様

【閉会点鐘】 長井 守 会長

例会場: パレスホテル立川 (立川市曙町2-40-15)

例会開催日: 毎週金曜日 開会点鐘 12:30

会報担当者: 増田太一

発行者: 長井 守

事務局: 立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階

【TEL】 042-525-4046 【FAX】 042-529-2666

【HP】 <http://www.tachikawa-rc.org/>

【E-mail】 ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp



例会時には必ずバッジをつけましょう

新入会員の紹介



かとうちあき
加藤千晶さん

配属委員会：社会奉仕委員会

生年月日：昭和34年2月生(60歳)
事業所：富士ゼロックス多摩株式会社
略歴：横浜国立大学経済学部卒業後、富士ゼロックス(株)入社。同社城南支店長、地域営業部長、富士ゼロックス神奈川(株)代表取締役社長、富士ゼロックス兵庫(株)代表取締役社長を経て現在富士ゼロックス多摩(株)代表取締役社長
在住：神奈川県川崎市
家族構成：妻、長女、次女
趣味：スポーツ・ゴルフ



【アドバイザー】鈴木祥祐さん

【幹事報告】 中山賢一 幹事

●東京立川こぶしロータリクラブ会員(2015-16年度会長・2013-14年度多摩中グループ幹事)浅見省三様が9/21(土)ご逝去(享年70歳)。9/26(木)セレモニア立川会館・白鳳殿お通夜・本日12:30より告別式●新会員の名簿は来週の例会でお配り致します●9/20(金)R情報・雑誌委員会の炉辺会合開催●9/24(火)親睦委員会の炉辺会合開催●9/26(木)多摩中グループ協議会が開催●立川RC創立60周年記念木曾駒ヶ岳登山の練習では、高尾山を登山予定。どなたでも参加可



【ニコニコ発表】 親睦委員会 小川貴志 委員

- 長井 守 会長 玉元正男様お忙しい中、ありがとうございます。本日より宜しくお願い致します。加藤千晶さんの入会を歓迎致します。
- 中山賢一 幹事 本日の講師の玉元正男さん、卓話宜しくお願い致します。加藤千晶さん入会おめでとうございます。立川でのロータリーライフを楽しんでください。
- 伊藤平八朗さん 富士ゼロックス多摩(株)代表取締役社長加藤千晶氏の入会を祝して。横浜、神戸ロータリークラブでの経験を活かして努力願います。
- 山下隆仁さん 玉元正男様、本日はありがとうございます。沖縄は私の地元とも近く親近感があります。卓話楽しみにしています。
- 岩田明彦さん 本日の卓話講師玉元正男様、ようこそ立川ロータリークラブへ。楽しい卓話期待您的しています。
- 加藤千晶さん 本日入会させて頂くことになりました。何卒宜しくお願い申し上げます。

本日合計 39,000円 本年度累計 966,000円

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 岩田明彦 委員

玉元正男さんは1959年2月に沖縄で玉元家の三男としてご誕生され、その後上京してフィンガー5というグループで1973年にデビューし数々のヒット曲を生み出しました。リードボーカルの晃君が大きなトンボ眼鏡を掛けていた事が凄く印象的で人気がありました。この眼鏡は布施明さんの薦めで掛けたそうです。現在は荒川区町屋で沖縄料理と泡盛のいちゃりBARというお店を運営されています。私もそこで知り合いになりました。とても美味しい料理で、お母様の味をそのまま再現されているという事ですので、荒川区町屋方面に行かれる際はお立ち寄り頂ければと思います。



卓話「『沖縄』とフィンガー5ヒストリー」

元フィンガー5・町屋いちゃりBAR代表

玉元正男 様

フィンガー5は、トンボ眼鏡を掛けた晃と妙子为中心で、私は後方でバックアップ的な存在で頑張っていた三男の正男です。私が生まれた1959年の沖縄は、まだ戦争の真っ最中で、小さな島の半分以上が基地ではないかという位、米軍基地が存在している状態でした。その中で我々は育ちました。そしてどうしてフィンガー5が出来たのか、かいつまんでお話させていただきます。



フィンガー5の原点はロカビリー

僕が幼児の頃、両親はAサインバーという飲食店を経営していました。Aサインバーとはアメリカ合衆国沖縄琉球政府が許可する軍人専門の飲食店で、軍人しか入れません。従業員が約15名、当時としては結構大きな店で、毎日24時間殆ど稼働しているお店でした。中には今でいうロカビリーのリボンをしてスカート履いたお姉さん達がいきました。

その2階で生活をしていたので、暇になると営業中の店に行き、お姉さんや外人さんから、当時流行っていたツイストを教わり、それを覚えて披露していました。ある時地元で全島ツイスト大会があり、ツイストはそれほど日本で普及していなかった事もあり、3歳の私が出場し優勝してしまいました。そんなこともあり、ツイストボーイが居るとい噂が広まり、各Aサインバーに来店するお客様から多くのオファーが来ました。お店は軍人のお客様だけなので、すぐに戦争に行かなければならない人達ばかりで、持っているお金を湯水の様に使うのです。踊って帽子を回していくと溢れんばかりのチップが入り、当時1ドル360円でしたが、1日10件程回ると500ドル、1000ドル集まり本当に有り難い事でした。

ベンチャーズを演奏する子ども

そのうちに踊りだけではなく楽器もやりたくなり、周りの勧めもあり、小学校3年の時に初めて楽器を持ちました。当時自分と兄2人、ベースとドラムとギターで演奏を始める事になりました。当初歌は全く無く、当時流行っていたベンチャーズを主にインストルメンタルとして演奏をしていました。するとツイストボーイが楽器を持ったとまた広まり、方々からお呼ばれして稼ぐという生活をしていました。地元沖縄の琉球放送からもコンテスト番組出場の誘いを頂き、我々3人が5年生頭に楽器を持って行き、そこでまた優勝してしまいました。

ディレクターの方が「沖縄で小さい子が楽器を持ってベンチャーズを演奏するなんて有り得ない、これは東京に行ったらもっと凄い事になる」と両親に言っただけです。両親は子ども達がデビューする等、ハナから頭に無く、Aサインバーが凄い盛り上がりで稼いでいたので、後々店を継がせればと考えていた程度だったと思います。でも我々は音楽に目覚めてしまい、その思いは絶対曲げないという意識を持っていました。その思いに両親も負け、弟と妹を含め本格的なバンドとして東京に来ました。

東京に進出 米軍基地を回って演奏

昭和44年に初めて東京に来ました。ある方に紹介して頂き、東村山にある外人ハウスに住む様になりました。周りには1人として知人もおらず、どこでどの様に音楽活動をすれば良いのかと感じていました。Aサインバーを経営していたお蔭で母親は英語が堪能でしたので、米軍基地にアポを取り、まず立川基地内の将校倶楽部でクリスマスの時に演奏しました。すると小さい子が楽器を演奏するという評判になりました。偶然沖縄のAサインバーにも来店したことのある方が、当日も現場にいて「この子達の演奏は本当に凄い。沖縄でもそれ相当の実績もある」と各基地に紹介をして下さり、母親の運転するマイクロバスに荷物を詰め込み、全国の将校倶楽部を周りました。

レコードデビューしたが全く売れない

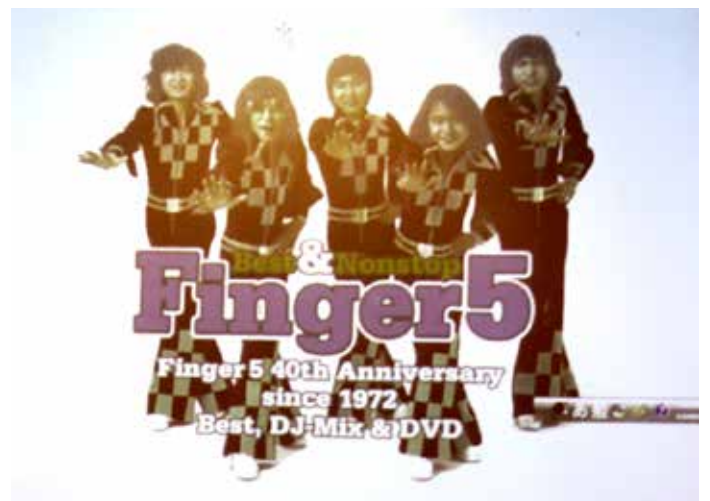
父親は東京で職に就き、家族はその給料で生活をしていました。その時にNHKの方に目を掛けて頂き昼番組や子どもショー的な番組にもゲスト出演しました。するとキングレコードからお話を頂きデビューとなりました。しかし「沖縄のイメージを出す」と言われ服装だけでなく、音楽も子どもチックで、今まで外人相手に英語で歌って喜んで頂いていたのに、これは自分達がやりたい音楽ではないと感じていました。3年で3枚のレコードを出し、全国のレコード店を周りながら演奏をして、レコードを手売りしていきましました。想像通り全く売れませんでした。

1972年沖縄が返還されました。その時父親は報道を見て寂しく思ったのか号泣していましたが、その姿を見て自分達は沖縄に帰らなくては行けないと感じたのです。

ある時の家族会議で、父親は「3年やって全く売れない。このまま続けていく事も難しい。それでも残るか沖縄に帰るか…。」という話になり、結果として沖縄に帰るという決断をしました。

戸倉俊一・阿久悠との出会い

帰る少し前、たまたまキングレコードにいたサブディレクターがフィリップスレコードに移籍し、矢沢



永吉さんの「キャロル」を大ヒットさせていました。彼は「もっとすごいのが日本にはいる」と言って急達呼ばれたのです。レコード会社の会議室に呼ばれて演奏しました。社長や役員、部長など幹部の方、そしてステージの正面に何故か2人掛けの椅子とテーブルがあり、疑問に思っているとドアが開いて阿久悠先生と都倉俊一先生が入って来られました。しかし自分達は誰か分からないままでした。都倉先生が「自分達の得意な曲も含め何曲か演奏してみて」と言われ、突然の事に驚きながら皆で相談をした所、どうせ駄目かも知れないから得意な曲をやろうと、ローリング・ストーンズ、トム・ジョーンズの演奏をスタートしました。最初腕組みをしていた先生は、次第に前のめりとなり、1曲終わった時に「OK!」と言われましたが、その瞬間「やっぱり俺達のサウンドを分かっている」ぐらいの生意気な感覚でした。両先生が幹部の方達と話している間に片づけをし、「お疲れ様でした」の声掛けと共に両先生が「君達、これからやるよ!」と言われました。そしてレコード会社の方達に対しても「是非この子達にやらせてください」とお願いしていました。当時大先生が自らやらせてくれ等、有り得ない事で普通はある程度のお金を積んで作詞・作曲をお願いする形でしたが、そうではなく先生方から言って頂いた事は今でも感謝しています。

阿久悠先生はもう亡くなっていますが、生前の自著の中で「フィンガー5は本当の意味で日本の最初のアイドルではないか、日本のアイドルではなくアメリカチックな物を持っている子達だ」と書いて頂きました。昭和48年「個人授業」という曲を書いて頂き145万枚を売上げ、その3ヵ月後「恋のダイヤル6700」が発売され160万枚、そのまた3ヵ月後「学園天国」が発売され110万枚というミリオンヒットとなりました。

夜8時以降の出演制限で紅白出場は出来なかった

レコード大賞もという勢いでしたが、当時事務所との力関係もあり、私達は取ってつけたような「ア

アイドル賞」と「音楽プロデューサー賞」を頂きましたので、大変有り難い事ではありました。当時国会でフィンガー5は子どもにも関わらず夜8時以降の生放送にテレビ出演していると大変問題視され、それ以後夜8時以降のテレビ出演は出来なくなりました。そのため紅白歌合戦も出場していません。

人気の低迷・活動の停止

余りの忙しさに、やがて兄弟は「辛くても休めない」「勉強も完璧には出来ない」「変声期」などの問題を抱え、今後どうするかという家族会議が開かれました。そこで自分達が本当にやりたかった音楽を勉強するため全員で半年間アメリカに行きました。半年の時間が流れた事で人気は流石に低迷し、ポリドールレコードに移籍もしましたが、以前のような子どもチックな音楽に戻されてしまった上に長男が抜け、甥っ子を入れて活動を続けましたが、以前のような活動は出来なくなりました。メンバー全員が20歳を超えた時、父親は母親と共に沖縄に帰りました。兄弟も全員それぞれの道を歩むことになりました。父は既に他界しましたが、母親は健在で18歳のひ孫が居ますので玄孫も見られるのではないかと思います。本日はありがとうございました。『三線の花』を歌います。



玉元正男 様による『三線の花』

三線の花 / Begin

いつしか忘れられた オジーの形見の三線
床の間に誕生祝いの 島酒にもたれて

ほこりを指でなでて ゆるんだ糸を巻けば
退屈でたまらなかった 島唄が響いた

鮮やかによみがえる あなたと過ごした日々は
やわらかな愛しさで この胸を突き破り
咲いたのは 三線の花

テレビの斜め向かいの あなたが居た場所に
座ればアルミの窓から 夕月が昇る

家族を眺めながら 飲む酒はどんな味
眠りにつく前の 唄は誰の唄
喜びも悲しみも いつの日か唄えるなら
この島の土の中秋に泣き冬に耐え
春に咲く 三線の花

この空もあの海も 何も語りはしない
この島に暖かな 風となり雨を呼び
咲いたのは 三線の花

秋に泣き冬に耐え 春に咲く 三線の花



親睦とクラブ活動の源(みなもと) 「炉辺会合」沸騰中! Part2

9/20(金) R情報・雑誌委員会炉辺会合開催



9/24(火) 親睦委員会炉辺会合



MEMO 炉辺会合 (Fire-Side Meeting) とは?

かつて「炉辺談話」通称「炉辺会合」といわれた集いは、名称に「座談会」「家庭集会」「情報集会」などと変遷があり、現行では、この言葉そのものが「手続要覧」には見られなくなっている。実態として、クラブによって、さまざまな名称で集会が行われている。(ロータリー百科事典より抜粋)・・・当クラブも長年の慣習で「炉辺会合」の名称で、主に夜間に委員会会合を行っています。

9/28(土) 60周年記念登山に向けた練習登山

たかが高尾山、されど高尾山

60周年記念登山を1週間後に控え、体や靴を馴らすため高尾山で練習登山をしました。我々7名は標準時間90分を目指して登山を開始しましたが、老若男女の登山客のほとんどの追いつけられ、時間ばかりが無情に過ぎていきました。最後の難関250段の階段をクリアした時には120分を過ぎてしまい、なんと下山をあきらめる者まで出る始末。高尾山をなめてはいけぬ教訓を実感しました。下山は3班に分け、最短は30分で1番に下山。2番目がケーブルカー利用組、3番は下山標準を20分もオーバーしましたが、全員無事で仲良くふもとの温泉に浸かりました。昼食を摂りながらの宴会? はいつものパターンになり、本当の練習はどっちだったか疑問を感じる1日でした。お疲れ様。(取材:クラブ会報)

